

方剂名		効能	生薬組成
書籍		主治および証	病機 方意
理気剤 降気剤 6			
きつびちくじょとう 橘皮竹茹湯	降逆止嘔・益気清熱	橘皮 9g・竹茹 9g・大棗 6g・生姜 9g・炙甘草 6g・人参 3g 水煎し服用する。	
金匱要略	<p><主治> 胃虚有熱、気逆不降 悪心、乾嘔、吃逆、食欲不振、脈が数で無力などを呈す。</p> <p><病機> 久病による胃虚、あるいは急激な嘔吐、下痢による胃気の損傷で、胃気が虚して和降できなくなり、軽度に胃熱を伴った状態である。 悪心、乾嘔、吃逆（呃逆）は胃気上逆を、食欲不振、舌質が嫩、脈が無力は胃虚を、舌質が紅、脈が数は胃熱を、それぞれあらわす。</p> <p><方意> 降逆止嘔を主とし補胃気、清胃熱を加える。 理気と胃の橘皮（陳皮）と、清熱安胃の竹茹が主薬で、胃気を下降して止嘔、止呃する。補気益胃の人参は胃気を補い、橘皮と合わせると行中有補になり、補益しても滞らせない。辛温の生姜は和胃上嘔に働き、竹茹に配合すると清中有温の意味をもち、清熱しても寒涼に過ぎることなく、胃気停滞を防止できる。炙甘草・大棗は、人参を助けて益気と胃に働き、薬性を調和する。全体で降逆和胃、清熱、益気し、補して滞らず清して寒えず、胃虚有熱の胃気上逆に有効である。</p> <p><参考> 胃陰不足による口渴、舌質が紅、舌苔が少で乾燥、脈が細数などを伴うときは、麦門冬・石斛・枇杷葉・茅根などを加える必要がある。</p>		
さいせいきつびちくじょとう 濟生橘皮竹茹湯	降逆止嘔・益気陰・清熱	茯苓・橘皮・枇杷葉・麦門冬・竹茹・半夏各 6g・人参・炙甘草・生姜各 3g （橘皮竹茹湯 + （茯苓・半夏・麦門冬・枇杷葉））に相当する。 水煎し服用する。	
濟生方	<p>主治は、胃熱、気陰両虚による胃気上逆。 橘皮竹茹湯+（茯苓・半夏・麦門冬・枇杷葉）に相当する。 降逆の半夏、清胃止嘔の枇杷葉、滋陰養胃の麦門冬、健脾利水の茯苓を加え、清熱滋陰、降逆を強めると共に、滋潤による胃気停滞を防いでいる。</p>		
しんせいきつびちくじょとう 新製橘皮竹茹湯	降逆止嘔・清熱	橘皮・竹茹・柿蒂各 9g・姜汁 3ml （橘皮竹茹湯 — （人参・炙甘草・大棗） + 柿蒂）に相当する。 水煎し服用する。	
温病条弁	<p>主治は、胃熱による胃気上逆。 橘皮竹茹湯から補気益気の人参・炙甘草・大棗を除き、降逆止呃の柿蒂を加えたものに相当する。 胃気虚がみられない胃熱の嘔逆に適する。</p>		